

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10530

研究課題名(和文) 自閉スペクトラム症を有する人の支援者への多職種型教育プログラムの構築

研究課題名(英文) Multidisciplinary training program for visiting nurses for supporting people with autism spectrum disorder

研究代表者

中島 充代 (NAKASHIMA, MITSUYO)

福岡大学・医学部・教授

研究者番号：60320389

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：英国における自閉スペクトラム症(ASD)をもつ人への支援をみると、看護師の地域相談支援、学校での委託機関による教育支援など、医療・福祉・教育などが連携し、早期からニーズに応じた支援を地域で実施していた。今回は、ASDを有する人への支援のための教育プログラムに精神科医師による薬物を含めたASDに関する知識、公認心理士によるASDを有する人へのコミュニケーション、精神保健福祉士による家族支援、就労支援を実施した。アウトリーチを実施している看護師には困った時の対応を実施してもらった。結果、知識は有意に増加したが、在宅看護の質の向上や学習意欲の高まりには有意な差を認めなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

発達障害と診断される人は増加し、早期からの支援が必要とされているが、我が国におけるインクルーシブ教育と早期支援は遅れていると言わざるを得ない。今回の調査では、訪問支援に携わっている医療・福祉の専門職者に対して、多職種型の教育プログラムを実践してみた。その結果、知識は向上するが、在宅における実践の質の向上迄はいたっていないことがわかったので、症例検討を加えて学習していく必要がある。

研究成果の概要(英文)：We visited medical and welfare support facilities for people with autism spectrum disorder (ASD) in the UK, medical care, welfare, education, etc. collaborate, such as counseling support in the community by nurses and educational support by commissioned organizations at schools. We became keenly aware of the need to implement mental health services in the community that meet needs. This time, the educational program for supporting people with ASD includes knowledge about ASD including drugs by a psychiatrist, communication for people with ASD by a certified psychologist, family support and employment support by a mental health worker. was carried out. We asked the nurses conducting the outreach to help us when we were in trouble. As a result, although there was a significant increase in knowledge, no significant difference was observed in the improvement in the quality of home nursing care or the increase in motivation to learn.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神科訪問看護 自閉スペクトラム症 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

2009年の厚生労働省の中間報告で、精神科訪問看護は入院日数を減らし、再発を防ぐ効果があり、さらなる充実が求められている。精神科訪問看護ケア内容をみると、精神状態の観察が88.2%、心理的支援62.4%、服薬援助57.2%、家族への指導・支援38.3%であり、一般科と異なる専門性が要求される。しかしながら、訪問看護師で精神科臨床経験がある看護師の割合は61.1%で、専門機関等主催の精神保健に関する研修修了者は21.3%であった(厚生労働省2012)。自閉症スペクトラム障害(以下ASD)の疫学的数値は0.6%(発達障害白書2013)と統合失調症の0.7%と同程度であるとされていた。しかし、2020年に発表された弘前大学の調査結果において、5歳におけるASDの有病率は3.22%と推定され、高頻度で他の発達障害を併存していることが明らかにされた(国立大学法人弘前大学2020)。最近注目されている地域におけるひきこもりの中には、ASDと診断される人がいる(発達障害白書2013)。ASDの特徴として、コミュニケーションの質的障害、興味や関心の限定、反復的で常同的行動、感覚過敏性が挙げられ、孤立しやすく衝動性の高さもある(DSM-5 2012)。統合失調症の訪問看護ケアの類型化(日本看護科学学会誌2012)はあるが、ASDのケアについて明文化されておらず、他職種の望む生活の構造化やリズム獲得、社会的スキルや対人スキル支援は不十分である。もちろんASDを有する人の看護に関する教育システムはなく、訪問看護師は、十分なケアができない不全感、家族との関わり方がわからず(病院・地域精神医学51,2009)、自分の訪問看護に自信が持てずにいる(日本看護科学学会誌2006)現状がある。現在、精神科訪問看護の研修は、精神科訪問看護基本療養費算定要件として、一般社団法人全国訪問看護事業協会が精神科訪問看護研修会を実施している。その対象者は、訪問看護ステーションの精神科訪問看護に従事する者であり、精神科訪問看護基本療養費が算定できる作業療法士の有資格者が含まれている。1回の研修では約300名が受講し、グループワークも含まれている。大学などでは複数の医療職種の学科学生がともに学ぶ多職種連携教育(Interprofessional Education:以下、IPEと略す)が実施されている。イギリスの専門職連携教育推進センター(Center of Advanced Interprofessional Education:CAIPE)では、IPEを「複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所で共に学び、お互いから学び会いながら、お互いのことを学ぶこと」と定義している。本研究においての多職種型教育もIPEに基づいて、参加者のみならず、教育者も多職種で実施することとした。我々の調査で得た訪問看護師の実践内容の結果からより実践に活用できる多職種型教育プログラムを作成したが、知識や看護の質の向上、自己効力感にはつながらなかったため、プログラムを改善して実施していく。

2. 研究の目的

- 1) 英国における多職種連携教育とASDを有する人への支援の実際を知る。
- 2) ASDを有する人とその家族の支援ニーズを調査する。
- 3) IPEの考えに則りプログラムを実践し、訪問看護職者のASDに関する理解と訪問看護実践能力の変化を測定することにより、教育プログラムを評価する。

3. 研究の方法

- 1) 英国におけるASDを有する人への支援の実際を知るために、コミュニティで実施されているメンタルヘルス教育と支援、学校におけるメンタルヘルス支援、大学における看護師教育等の実際を見学したり講義を受けたり、スタッフや当事者と意見交換を実施した。
- 2) ASDを有する人とその家族へのインタビュー調査を実施する予定であったが、Covid-19の影響により、実施することができなかった。
- 3) IPEの考えに則り、我々の調査で得た訪問看護師の実践内容の結果(日本看護福祉学会誌2020)からより実践に活用できる多職種型教育プログラムの6回コース(2日間)を表1の通り作成した。今回は、地域で発達障害者を支援している児童精神科医の協力を得て、訪問看護職者のASDに関する理解と訪問看護実践能力の変化を測定することにより、教育プログラムを評価した。評価項目は、ASDに関する知識と在宅看護の質を自己評価する尺度と、やりがい等に関する質問を、研修前・研修直後・研修1か月後に実施した。倫理委員会の承認を得た。

表1 訪問看護研修内容

	研修内容	研修担当者
第1回	ASDに関する知識、精神的・心理的特徴と二次障害	精神科医
第2回	ASDに関する知識、薬物療法	精神科医
第3回	ASDを有する人の社会的認知機能とコミュニケーション、行動療法	公認心理士
第4回	ASDを有する人とその家族への支援	精神保健福祉士
第5回	ASDを有する人への就労支援とその対応	精神保健福祉士
第6回	ASDを有する人への訪問支援 事例検討会	訪問看護師

4. 研究成果

1) 英国における ASD を有する人への支援の実際

(1) 大学における看護師教育

英国は登録看護師(Registered Nurse)制度で、看護師国家試験はない。Adult nursing, Mental health nursing, Learning disabilities nursing, Children's nursing に分かれて教育され、我が国とは異なるスペシャリスト教育制度である。訪問した Edinburgh Napier University には Mental health nursing コースがあり、主に精神疾患を有する人を対象として、コミュニティ、ヘルスセンター、デイホスピタルなどで、他職種とチームを組んで協働していた。Learning disabilities nursing は学習障害を有する人々を対象として、生活施設、教育訓練施設、コミュニティ、家庭、学校などで看護を実施していた。ASD を有する人へは 4 つの Strategy が挙げられ 1 番目は、「A Health Life」、2 番目は「Choice and Control」3 番目が「Independence」、4 番目は「Active Citizenship」。Autistic people への人生を通じた移行支援の政策も必要で、社会的な孤立を防ぎ、提言する政策が今後の課題となるとのことであった。

(2) 地域におけるメンタルヘルスサポート

Coventry & Warwickshire Mind を訪問した。Mission は Mental health の問題を経験した人々とともに、社会的なスティグマを減らし、well being と mental health の状態を保つサービスと支援を提供することである。看護師は、病院から退院直後の人へ集中的な回復支援(Intensive recovery support services)を実施していた。その他 Recovery をベースとした Day services、宿泊施設と流動的な支援(Accommodation & Floating Support Services)があり、Coventry の Foleshill 区域の Residential recovery centre であった。Recovery & Wellbeing ACADEMY があり、27 団体と partnership 関係にあり、その一部の団体とも交流し、支援だけではなく地域の mental health 教育も支えていることがわかった。

(3) 学校におけるメンタルヘルスサポート

ABC Behavior Ltd.が実践している A: learning, attainment, aspirations, access : 学習障害などへの支援、B: confidence, self-esteem, positivity, optimism : 情緒的支援など、C: behaviour, relationship, challenges, conflict resolution : 行動に基づいた高等学校における支援の実際に参加し、支援を受けている学生と交流した。Inclusion support で integration の特別支援学級ではなかった。An inclusive learning community-in and around a school であり、コミュニティの大切な構成メンバーとしての設定のなかで学ぶことを保証するものだった。

(4) 地域における早期メンタルヘルスサポート

First Step を訪問し、早期の子どもへの Mental Health Support の実際をみた。午前中は親と子ども、午後は子どもだけを支援している。2 歳から 5 歳までを対象に支援をしていた。親が子どもを連れてきて一緒に過ごす。コミュニケーションや集中力、アイコンタクトなど、コミュニケーションに必要なことを ASD の診断前から支援していく機関であった。

(5) Psychotherapy Unit で実施される支援

児童心理療法士と面談を実施した。最近、ASD への PACT (Preschool Autism Communication Trial) 就学前自閉症コミュニケーショントライアルが実施されている。1 年間を治療期間とし、前半 6 ヶ月間はセラピストと共に行う療育期間(週 1~2 回面談)、後半 6 ヶ月間は自宅で保護者が実践し、フォローアップし(週 1 回面談)ドロップアウトはほとんどないとのことであった。

3) ASD を有する人を支援する専門職者への多職種型教育プログラムの評価

(1) 対象者; 21 名が参加し、選択基準をみたさなかった 3 名を除外し、書面で同意を得た 14 名(男性 1 名・女性 13 名)を対象とした。職種別では、看護師 9 名、作業療法士 2 名、精神保健福祉士 2 名、言語聴覚士 1 名を調査対象とした。平均経験年数は 14.21 ± 9.54 年で、訪問看護の経験は 5.43 ± 3.99 だった。研修直後の回答は 12 名、研修 1 か月後は 6 名が返信した。

(2) ASD に関する知識; 39 項目の正解があり、研修前 23.54 ± 11.61 で、研修直後は 32.54 ± 8.18 と有意に増加した($t=3.19, p=.008$)。研修 1 か月後も知識量は維持されていた。

(3) 在宅における看護実践自己評価尺度(三浦 2005)

6 因子 30 項目を実施した結果、全ての因子において平均得点は上昇したものの、研修前と比較して、研修直後、1 か月後とも有意な差は認められなかった。

(4) 学習意欲等; ASD を有する人への訪問支援への興味・やりがい・自信・学習意欲・情報活用意欲・専門職の交流希望を調査した結果、平均得点は上昇したものの有意な差はなかった。

(5) 今後の学習ニーズ

学びたい内容の自由記述からは、「障害をもつ家族支援」、「支援サービスと支援者の連携」、「問題行動への対処」、「言語的コミュニケーションがとれない場合の対応」などがあがった。成人だけでなく、児童への支援について、個別のニーズに対応するために事例検討会を希望する内容があった。

以上の調査を行って、訪問看護支援者が個別のニーズへ適切に対応するスキルの向上を望ん

でいることが明らかになったので、個々の事例を振り返っていく必要があると考える。

引用文献

- 1)厚生労働省 2012年度診療報酬改定結果検証に係る調査
- 2)日本発達障害福祉連盟著 発達障害白書 2013年版 明石書店 2012
- 3)Manabu Saito, Tomoya Hirota Yui Sakamoto et al., Prevalence and cumulative incidence of autism spectrum disorders and the patterns of co-occurring neurodevelopmental disorders in a total population sample of 5-year-old children Molecular Autism, 2020 no.35
- 4)角田秋、柳井春夫、上野桂子他 精神科訪問看護ケアの類型化の検討 - 訪問看護ステーションが統合失調症を有する人への提供するケアの類型と対象の特性 - 日本看護科学会誌 vol.32 No.2 2009 pp3-12
- 5)飯村麻希 訪問看護ステーションにおいて精神科訪問看護に携わる精神科経験のない看護師の困難とニーズ 地域・精神医学雑誌 vol.51 no.2 2009 pp145-146
- 6)三浦弘恵 舟島なをみ 鈴木恵子 在宅における看護実践自己評価尺度の開発 千葉看会誌 vol.11 no.1 2005 6 pp31-37

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中島充代 中山政弘 池田智 大重育美 原田春美 倉知延章	4. 巻 27
2. 論文標題 自閉スペクトラム症を有する人への精神科訪問看護支援の実施と構造	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島充代、池田智、原田春美、大重育美、中山政弘、倉知延章	4. 巻 26
2. 論文標題 自閉スペクトラム症を有する人への訪問看護実践の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島充代 小柳康子 池田智 倉知延章 大重育美	4. 巻 第4号
2. 論文標題 イギリスと日本における看護教育の比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡大学 教職課程教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	倉知 延章 (KURACHI Nobuaki) (10364697)	九州産業大学・人間科学部・教授 (37102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	原田 春美 (HARADA Harumi) (70335652)	関西福祉大学・看護学部・教授 (34525)	
研究分担者	大重 育美 (OOSHIGE Narumi) (70585736)	長崎県立大学・看護栄養学部・教授 (27301)	
研究分担者	池田 智 (IKEDA Saoshi) (90759268)	福岡大学・医学部・助教 (37111)	
研究分担者	黒髪 恵 (KUROKAMI Megumi) (30535026)	福岡大学・医学部・講師 (37111)	
研究分担者	中山 政弘 (NAKAYAMA Masahiro) (50576410)	佐賀女子短期大学・その他部局等・准教授 (47201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関